

Re LIFE

人生充実

そばに置きたい



英国生まれで、日本で始まったのは明治時代。軍服用の毛織物の需要が高まったことが背景にあります。岩手では、手仕事の良さを見直す民芸運動も相まって庶民向けに作られるようになりました。特徴は、原毛を「先染め」すること。それを紡いで糸にして、織って布を作ります。盛岡市の蟻川工房では化学染料を主に使っています。天然染料に比べ色落ちしにくく、

手紡ぎ手織りのマフラー

寒い日が続いています。外出時にマフラーを手放せない方も多いでしょう。

紹介するのはホームスパンのマフラーです。ホームスパンとは、ホーム(家庭)とスパン(紡ぐ)を組み合わせた言葉で、手紡ぎの毛糸を用いた手織りの毛織物を意味します。



耐久性にすぐれているからです。研究を重ね、天然染料に引けを取らない色具合を出すことに成功しました。布の仕上げに機械を使うのが主流の時代ですが、手仕上げの伝統を守っています。

私は蟻川工房の布地を使ったジャケット2着とネクタイを持っています。ジャケットは暖かくて、風合いがいい。人から「いいの着てますね」とほめられると、うれしくなりますね。マフラーは、織りがしっかりしています。

街でマフラーをまとう人を見かけますが、装飾過多なものが多い気がします。蟻川工房のものは簡素でいやみがないので、服に合わせやすいと思います。

蟻川工房のホームスパンのマフラー
 一 税込み1万4700円。幅18センチ、長さ126センチ。取扱店は盛岡市青山4の42の7の蟻川工房(019・645・4225)に問い合わせを。外山亮一撮影

(手仕事フォーラム代表 久野恵一)